

“わたしのまち”

台東区

魅力いっぱい谷中そぞろ歩き

ゆつたりとした時間を感じながら、
レトロな東京を発見できるまち

台東区の観光地と言えば上野や浅草が有名ですが、それ以外にも魅力的な場所がたくさんあります。そのひとつ谷中には、ゆつたりと時間が流れる古いまち並みが残り、レトロな東京を発見できます。季節ごとのイベントでにぎわう寺院や文化施設、活気あふれる商店街など魅力いっぱいの谷中を紹介します。



魅力的な観光地が集まる台東区

東京の代表的な観光地が集まる台東区。都内最古の寺院として年間約300万人の人が訪れる浅草寺、美術館や博物館が集まる上野など、区内には歴史や文化を感じさせる場所が数多くあります。また、上野の桜まつりや浅草神社の三社祭、入谷朝顔まつり、浅草寺ほおづき市、鷲神社の酉の市など1年を通してさまざまなイベントでにぎわい、国内だけでなく海外からも多くの観光客が訪れます。

古いまち並みが残る谷中

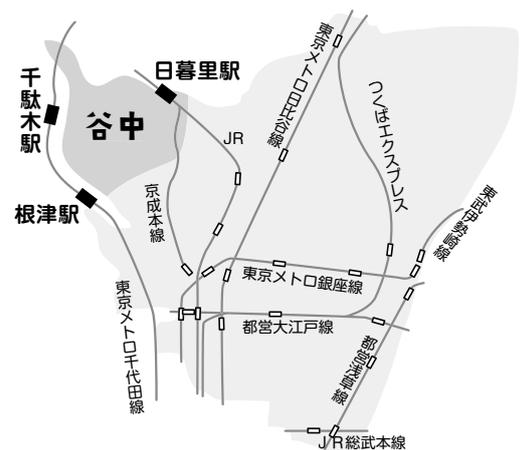
上野や浅草とは異なる雰囲気を持つ谷中も観光客に人気の地域です。谷中は、谷中・根津・千駄木を総称した

「谷根千（やねせん）」のひとつとして知られ、東京の下町風情が感じられる場所として多くの人が訪れます。

江戸時代に上野に寛永寺が創建され、それに伴う寺院の建立や幕府の政策により神田付近から多くの寺院が集められ、谷中は門前町として発展してきました。さらに、震災や戦災の影響が比較的少なかったため、今でも昔ながらのまち並みや建造物が多く残されています。

また、伝統工芸の店や博物館、個性的なギャラリーが集まり、これらを巡りながら散策する人も多くいます。

ゆつたりと時間が流れる古いまち並み、小さなお店をのぞきながらレトロ



観光自慢!

観光地が多い台東区

イベント来訪者数ランキング

1位	浅草寺 初詣(3ヶ日)	2,570,000人
2位	うえの桜まつり	2,000,000人
3位	三社祭	1,840,000人
4位	西の市	1,050,000人
5位	隅田川花火大会	954,000人
6位	三社祭700年祭舟渡御	585,000人
7位	浅草寺ほおづき市	550,000人
8位	うえの夏まつり	500,000人
9位	浅草サンバカーニバル	495,000人
10位	下町七夕まつり	418,000人

※平成24年1月～12月に区内で開催されたイベント来訪者数(平成24年度台東区観光統計・マーケティング調査報告書より)

そのほかにも谷中には、明治初期の日本画家、狩野芳崖の墓所がある長安寺や、幕末から明治にかけての政治

不動(瀧泉寺)・湯島天神(湯島天満宮)と並び、江戸の三富と呼ばれるほど盛んだったそうです。寛永寺のほど近くにある浄名院は江戸時代に建立され、約2万体を数える石の地蔵が並んでいます。旧暦の8月15日には「へちま供養」が行われ、この日に境内にあるへちま地蔵に祈願すると咳、喘息に効用があるとされ、全国からの参詣者で大変にぎわいます。一方、「瘡守稲荷」として江戸中期より祀られ、疱瘡、皮膚病を治すご利益で知られたのが大圓寺です。江戸の三大美人と謳われた茶屋、鍵屋の看板娘「お仙(おせん)」を錦絵の開祖、鈴木春信が描いたことを記した碑や、永井荷風が建立した「笠森阿仙乃碑」があります。また、毎年10月に開催される「谷中菊まつり」も有名で、たくさんの方が訪れます。



浄名院にある地蔵は「八万四千体地蔵」と呼ばれるとおり、石の地蔵が境内いっぱい並んでいて圧巻である。現在までに何度か、実際に八万四千体の願いがかなえられた

一年に一度の「へちま供養」の際には全国から参詣者が集まる



朝倉彫塑館の中庭は、くみ上げられた地下水による池に日本各地から取り寄せた銘石を配し、四季折々に花をつける植栽で朝倉文夫の自然観を表現している



な東京を発見できる散歩道…。見どころがいっぱいの谷中は、のんびりと散歩するのにぴったりの場所です。区の調査では、谷中を訪れる人のうち約65%が、散歩・散策を目的に訪れているそうです。

文化・歴史を感じさせる場所

寺町として栄えてきた谷中には、古くから残る寺院がたくさんあります。都内有数の古寺、天王寺はかつては

感応寺と呼ばれ、鎌倉時代に創建されたと言われています。江戸時代には現代の宝くじのルーツ「富突(とみつき)」を興行し、江戸庶民に人気がありました。谷中感応寺の富突は、目黒

家、山岡鉄舟が建立し、落語家の三遊亭円朝の墓所がある全生庵などの寺があります。全生庵には、江戸の絵師、円山応挙の幽霊画があり、毎年8月には怪談、人情話を得意とした円朝を偲ぶ「円朝まつり」が開催され、寄席のほか、有名画家による幽霊画が多数集まり公開されます。寺院以外にも、アートのまちでもある谷中には、気軽にのぞけるおしゃれなアトリエやギャラリー、博物館などが点在しています。古いまち並みにと

けこんだ芸術空間をぶらりと訪れてみるのも谷中散策の魅力です。その中のひとつ、日本近代彫塑の基礎をつくった朝倉文夫のアトリエ兼住居を公開した「朝倉彫塑館」も来訪者に人気のスポットです。西洋建築のアトリエ棟と、竹をモチーフにした数寄屋造りの住居棟などからなり、約100点の作品が展示されています。見学の際には中庭も必見です。南北約10m、東西約14mの空間は、四方を建物に囲まれ、そのほとんどを水面が占めています。決して広いとは



散策におすすめの風情あるまち並み

谷中には寺や昔ながらのまち並み・建造物が多く残されている。
平成19年には谷中のまち並みが「美しい日本の歴史的風土100選」に選ばれた。



明治時代の酒屋の建物を移築した下町風俗資料館付設展示場（旧吉田屋酒店）。館内には、当時実際に使われていた秤、樽、枡などが展示され、区指定の生活文化財となっている。

大名時計博物館の趣ある外観。大名お抱えの時計師たちが製作した和時計を見ることができ



谷中界限には古民家を改装したり寺の門構えをそのまま移築したギャラリーやアトリエがたくさんあり、個性的な芸術に出会える。写真は銭湯を改装したギャラリー「SCAI THE BATHHOUSE（スカイザバスハウス）」

谷中散策の際にぜひ訪れたいのが谷中銀座商店街（谷中ぎんざ）です。JR日暮里駅の北口から御殿坂を上り、「夕やけだんだん」と呼ばれる階段を下ると、台東区谷中3丁目と荒川区西日暮里3丁目にまたがる商店街が続きます。食料品や日用雑貨など暮ら

下町の活気と人情を感じさせる場所

言えませんが、巨石、樹木、水によって構成された、朝倉文夫の芸術観がよく表れた密度の濃い空間です。そのほかにも、江戸時代の大名が使った和時計を展示するわが国唯一の博物館、「大名時計博物館」があります。櫛（やぐら）時計、台時計、枕時計、印籠時計などさまざまな和時計を展示しており、大名お抱えの時計師たちの高度な設計工作技術をつぶさに見学できます。

また、風情ある明治時代の酒屋の建物を移築した下町風俗資料館付設展示場（旧吉田屋酒店）や春の桜、秋の紅葉など1年を通じて四季折々の自然が感じられる谷中霊園など、谷中には散策して楽しい見どころがたくさんあります。



レトロな雰囲気漂う谷中銀座商店街。下町の活気と人情にあふれている

昔ながらの下町の面影を残す谷中界限は、文学の舞台として森鷗外や夏目漱石をはじめとする文人の作品に登場することから、ゆかりの地をめぐる散策する人も多く見られます。散策におすすめのこれからの季節、まち歩きを試みてはいかがでしょうか。

しに密着した庶民感覚の小さな店が軒を連ね、買い物客でにぎわいを見せています。レトロな雰囲気漂う商店街には約70軒の店が集まり、下町の活気と人情を味わうことができます。現在の谷中ぎんざはさまざまなメディアでも取り上げられ、買い物客だけでなく観光客も多く訪れる場所となっています。週末ともなると1日で1万4千人（平成26年調査）もの人が訪れます。

「谷中アーカイブ」がある

谷中防災コミュニティセンターがオープン

昭和54年から地域の人々に親しまれてきた谷中コミュニティセンターが、新たに防災機能を備えた谷中防災コミュニティセンターとして平成27年4月1日オープンした。

谷中防災コミュニティセンターに入る西部区民事務所谷中分室は、大地震などの際には、災害対策本部谷中地区本部となる。

また、上野消防団第7分団本部が入り、可搬ポンプ積載車等を格納し、災害時の活動拠点となる。

その他、1・2階にはトレーニング室や定員130名の多目的ホールを備えた区民館、こどもクラブと児童館、3階には中央図書館谷中分室が整備されている。この中央図書館谷中分室には、一般・児童図書他に、谷中に関する資料を集めた「谷中さんぽ基地（谷中アーカイブ）」を設置しており、谷中の散策、歴史に役立つ情報が置いてある。

谷中防災コミュニティセンター（外観）



多目的ホール

